

◎理事會開催

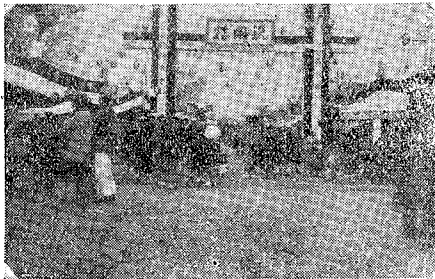
十二月二日午後五時から丸ノ内日本俱樂部に於て、理事會を開いた、水野會長始め山田、中川、村井、廣瀬、島の各理事及各幹事が出席した。道路改良の促進を圖る目的を以て曩に決定した講演會は豫定の通り鳥取市、倉吉町、米子町、福井市、小松町、金澤市、七尾町ミ順序に開催した講師として理事中川正左、評議員茂庭忠次郎、幹事佐藤利恭、武井群嗣の諸氏を煩したこゝを報告し、續いて内務省の要求した道路改良費豫算の通過に就いては澁澤顧問、山田理事を煩したが豫算閣議に於て今回道路改良費ミして、七百萬圓の通過を見たる旨を報告した後、這般歸朝された、

本會理事長岡社會局長官の歡迎會を催し、午後九時散會した。

◎市川橋開通式

江戸川を跨いで堂々たる偉觀を呈する市川橋の開通式は十二月二日午前

前十時から此の新装麗はしき橋畔に行はれた、當日は天氣快晴本省から内務大臣代理として武井事務官、東京府からは久

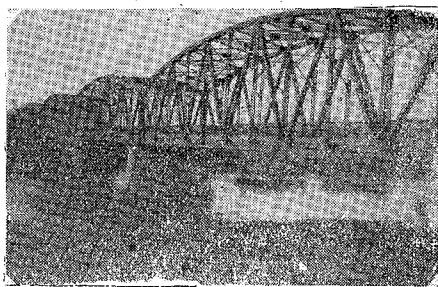


留島土木部長の臨場あり、千葉縣知事以下關係諸員多數參列（特に千葉縣會を休會して議員全部出席）し型の如く式は神官の修祓行事

に始まり齋主祝詞を奏し祭主千葉縣知事其他の玉串奉奠に祭儀を終り次いで千葉縣知事の式辭宮島土木課長の工事報

告後千葉縣知事内務大臣縣會議長市川町長等其他來賓の祝辭あり三夫婦三組其他順次渡初を終るや、朝來新橋を望んで待ち構へた多數の觀衆は一時に橋上に殺倒し、右往左往する者陸續として盡きず、

尙ほ市川町民は此盛事を祝ふ爲町内擧げて仕事を休み、諸所に餘興の小屋なご設け提灯漫幕を張り廻し老



絡する國道七號線として幹線要路で帝都放射道路として重要な關係を持つるものであり其他軍事上にも特殊の使命あるにも拘らず纔に應急的の木橋であつて現代交通の要求に甚だ不相應なものであつたので、東京千葉兩府縣協力し政

若男女に至るまで無數の人出で非常の賑ひであつた、年來の宿望を達した町民の歡喜もさこそ思はれた。

本橋は東京千葉兩市を連

府の補助を得て、工費五十

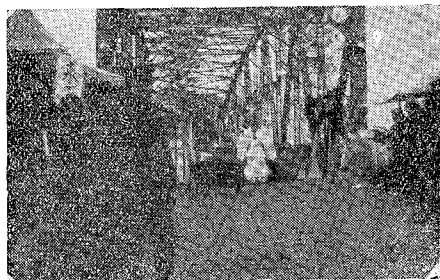
二萬三千餘圓を投じワール

ン型鐵結構橋徑間百八十呎

七連の構造で幅員四間の大

橋を茲に完成するに到つた

祝 辭



もので之れに依つて今後の交通は其の面目を一新し沿線地方の開発發產業上に資する所蓋し多大である。(永山生)

市川橋改築功ヲ竣エ本日茲ニ開通ノ式ヲ擧ケラル
抑モ七號國道ハ東京千葉兩市ヲ連絡スル幹線要路ニ屬シ帝都放射路線トシテ重要ナル地位ヲ占メ軍事上亦特殊ノ使命ヲ有スルニ拘ラス之ヲ遮斷スル江戸川ニハ從來僅ニ應急的木橋ノ架設アルニ止マリ現代交通ノ需要ニ適セサルノ憾アリ東京千葉兩縣相

謀リテ之カ改築ノ計ヲ樹テ今ヤ此ノ堅牢宏壯ナル新橋ノ成ルヲ見ル惟フニ之ニ依リテ本道路ノ效用全キヲ得ヘク邦家ノ爲寔ニ欣慰ニ堪ヘサルナリ冀クハ今後力ヲ之カ維持管理ニ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ完フセラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和二年十二月二日

内務大臣 鈴木喜三郎

◎篠ノ井橋竣功式

信州千曲川に架する新篠井橋の竣功式が、遠山に初雪を見る十一月二十二日新装成れる同橋上で行はれた、當日朝來天候險惡で川風いさゞ身に泌むとき、定刻を過ぐる事三時間午後一時に至りて漸く式を始めた、神官の修祓祭事は型の如く終つて諸員玉串奉奠千葉知事の式辭、菅土木課長の工事報告の後内務大臣代理、丹羽内務省道路課長が左の如き祝辭を代讀す。

祝 辭

篠ノ井橋架設工事其ノ工ヲ竣エ本日茲ニ開通ノ式ヲ舉グルニ遣

フ

本橋八十號國道千曲川ニ架設セラレ交通上夙ニ要位ヲ占ムルモ架橋年久シク其ノ構造亦現代ノ交通ニ適應セサルノ憾アリ今乃チ精巧ナル技術ノ下ニ新橋ノ架設成ルヲ告ケ面目茲ニ一新セルヲ見ル念フニ今後之ニ依リテ交通並産業等ニ及ス效果蓋シ極メテ大ナルモノアルヘシ冀クハ官民一致相率キテ之カ維持管理ニ力ヲ致シ以テ長ニ其ノ效果ヲ收メラレムコトヲ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和二年十一月二十三日

内務大臣 鈴木喜三郎

來賓の祝辭終つて、式を閉ぢ直に渡橋式に入り、神官の先導にて渡初の三夫婦以下順を逐うて古式に則り進行し、北端から折り返へすや、此時朝來寒風にさらされて待ちくたぶれた萬餘の群集は俄かに橋上に殺倒し身動きならぬ騒であつた。

本橋は更科郡榮村地内に在るもので、此邊川中島の古戰場であり、近くは廢警事件で有名な屋代篠ノ井の間に介在する謙信の陣した西條山信玄の構えた茶臼山は橋を隔て、

南北に對立してゐる、大正十年の起工だから、随分長くかゝつたものだ、總工費七十一萬三千六百二十二圓（内國庫補助四十六萬五百七十四圓）延長二百四十八間九分、水上百五十五間七分は鐵鋼橋積上九十三間二分は鐵筋混凝土橋幅員三間三分堂々たる近代的美橋であつて、肅殺たる北信の野に點する一偉觀たるを失はない。聞く所に依るこ之を接續する國道的全線改修計畫も着々進行の途に在る由、此橋梁の竣功を祝するに共に速に其の全線に互る改良の完成を祈つて止まない。（右田生）

◎千住大橋開通式

帝都北門の要路たる四號國道改築竣式と共に同路線隅田川に架する千住大橋開通式は舊臘十二月十二日舉行された、同橋は今を距る三百三十四年前、後陽成天皇の文祿三年甲午九月に伊奈備前守が木造で架設したのが最初のもので、既に其の當時から相當の交通量を有して居つたこと思

はれる、また其の橋材を高野山から楨材を運んで來て架けたといふ記録があるから、伊奈備前も相當な卓見家であつたやうである、當時の文化程度では機械器具等も備はらざりしに拘らず、よくも彼の干潮滿潮の水勢に最も惱まざる箇所上架橋し得たこと、畏敬せざるを得ぬ。

爾後月遷り星變りて或は腐朽し、或は洪水の厄に遇ひ、架換へ等も屢々行はれたのであるが、最近の交通量は非常な増加を來して舊來の弱橋では到底如何ともすることが出来なくなつたので、國庫から五十一萬八千九百二十一圓の補助を仰ぎ、東京府は二十五萬九千四百六十一圓、東京市は二十五萬九千六十圓を負擔して、茲に最新式の大鐵橋は架けられ、帝都と東北諸縣とを連絡することゝなつたのである。

本道路橋の様式に就て見るに近世式タイトアーチ型であつて基礎脚は南方に於て水面下四十六尺、北方に於て三十三尺の地盤より混凝土礎盤を築きて橋脚とし、鐵骨はアーチ型に組立て橋臺とし、橋面の鋪裝は木煉瓦とし車道、軌

道、人道亦整然と區劃され、照明設備も技工を凝らして装置し幅員の如きも舊木橋の三倍十二間に擴げられ、荷重耐久共に東京府下に於ける屈指のものである。

午前十時振鈴を合圖に型の如く神官の祭詞來賓の祝辭等ありて十一時半左記三夫婦の通り初め式に移り、正午から千住第二小學校で鈴木内相の音頭で兩陛下萬歲、四號國道改築竣成萬歲を三唱に相和して冷酒を傾け零時半からは各所に於て種々の餘興開始され夜に入るまで賑はつた、目出度三夫婦の生年月を聞くに大塊二三久は元治元年九月生、妻ちゑは慶應元年四月生。男、孟惠は明治十八年八月生、妻さき明治十七年八月生。孫、馨は明治三十二年五月生、妻アキ子明治三十七年九月生であつた。因に記す鈴木内相水野道路改良會長の祝辭左の通りである。

祝 辭

千住大橋及之ニ接續スル四號國道改築工事成ルヲ告ケ本日茲ニ竣工式ヲ舉行セラル邦家ノ爲寔ニ欣慶ニ堪ヘサルナリ
抑四號國道ハ古來陸羽街道ト稱セラレ奥羽地方ヲ經テ北海道ニ

至ル帝國重要ノ幹線ニシテ殊ニ今回改築ヲ了セル本箇所ノ如キハ實ニ帝都放射道路ノ咽喉ヲ扼シ交通産業上重要ノ地位ヲ占メ近代交通ノ要求スル構造ニ改築スル極メテ必要ナルモノアリ東京府カ大震災ノ後ヲ承ケテ財政甚タ多端ナルノ時銳意改築工事ノ完成ニ努メ今乃チ精緻ナル技巧ニ依リ宏壯堅牢ノ道路橋梁ノ成ルヲ見ル念フニ之カ完成ハ曩ニ竣工シタル千住新橋並栗橋ノ架設ト相俟テ其ノ效果ノ及フ所頗ル大ナルモノアルヘシ冀クハ今後維持管理ニ最善ヲ竭クシ長ク其ノ利ヲ收メラレムコトナ一言ヲ述ヘテ祝辭トス

昭和二年十二月十二日

内務大臣 鈴木喜三郎

祝 辭

四橋國道千住新橋千住大橋間道路橋梁改築功ヲ竣ヘ本日茲ニ開通ノ式典ヲ學ケラル寔ニ慶賀ニ堪ヘサルナリ
願フニ地方ノ開發産業ノ振興ハ交通機關ノ整備ニ俟ツモノ殊ニ多シ今本區間ノ道路橋梁成ルヲ見ル蓋シ其ノ效果ノ及フ所極メテ大ナルモノアルヲ信ス本會創立以來一意道路改良ノ促進ニ竭スコト多年機運ノ各地ニ蔚興スルヲ見欣懷ノ情殊ニ深シ茲ニ盛式ニ際シ衷心ノ祝意ヲ表ス

昭和二年十二月十二日

道路改良會長 水野鍊太郎